

グラフィック 復刻版 [全8巻]

THE GRAPHIC 1909年1月～1912年3月(全83号分)

木下直之(東京大学教授)…解説 B4判上製函入・総2,500頁 定価(本体250,000円+税)
ISBN4-7601-2755-0 C3330



写真報道時代の誕生を告げる
幻の大判雑誌を復刻!

収録写真10,000点以上、
英文キャプション併記

『グラフィック』特集号の表紙



名古屋大共進會紀念画報
(1910年5月1日号)



北海道拓殖画報(1910年10月10日号)



吉原大火(1911年4月15日号)



創刊号表紙(1909年1月1日号)



代表的日本 日英博覧會紀念出版
(1910年7月15日号)



特別大演習画報(1909年11月1日号)



東宮殿下北陸行啓画報
(1909年10月1日号)



大阪大火画報(1909年8月20日号)

お奨めします

日本近代史研究者
近代社会史研究者
近代風俗史研究者
近代メディア史研究者
公立図書館／大学図書館

※原本は4色・2色・1色刷で構成されています。創刊号は原本通りに完全復刻いたしました。第二号以降は、4色ページは原本通りに、2色ページは1色ページで復刻いたしました。

【本書の特長】
国内に極めて残存数が少ない雑誌
明治最末期の三年間余しか発行されていなかった同誌は、国内では東京大学の明治文庫および早稲田大学図書館、国立国会図書館など、数ヶ所の機関以外の所蔵は確認されていない。なお、全巻揃いで所蔵している機関は皆無。
二〇世紀初頭の国内外のニュースがビジュアルでわかる
発行されていた期間は短いですが、伊藤博文暗殺、韓国併合、大逆事件といった重大ニュースをはじめ、政治・社会・風俗・芸能・学術・文芸・軍事・科学・人物など、ありとあらゆるジャンルを網羅し、写真で情報を伝えることに特化した国内初の雑誌である。

取材対象は全国津々浦々

当時発行されていた新聞や雑誌にも写真は掲載されているが、本誌のようにあらゆる事象を取り上げ、精密かつ大判の写真を掲載しているものはない。取材の対象は日本全国にわたり、アジアや欧米諸国までもが含まれている。

●発行

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13
TEL.03-3830-1891(営業) FAX.03-3830-5337
E-mail: eigyo@kashiwashobo.co.jp
URL: http://www.kashiwashobo.co.jp

●取扱店

柏書房 〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13 TEL.03-3830-1891(営業) FAX.03-3830-5337
E-mail: eigyo@kashiwashobo.co.jp URL: http://www.kashiwashobo.co.jp

『グラフィック』発行期間中の主な出来事

1909年(明治42)

- 4月 芝増上寺本堂全焼
- 5月 浅間山噴火、12月再噴火
- 5月 両国に新築の国技館開館
- 6月 スリの親分仕立屋銀次検挙
- 6月 東宮御所(赤坂離宮)完成
- 7月 韓国併合の決定
- 7月 横浜で開港50年祭挙行
- 7月 大阪市北区で大火
- 8月 滋賀・岐阜県下に強震
- 9月 東宮殿下(のちの大正天皇)、北陸行啓
- 10月 伊藤博文、ハルビン駅で暗殺
- 11月 伊藤博文国葬
- 11月 福岡県大之浦炭鉱でガス爆発、255人死亡
- 12月 三越で万国玩具展覧会開催
- 12月 陸軍大尉相原四郎、上野で竹骨複葉式グライダーに乗り初の空中滑走
この年、ピリケン流行
この年より軍部の航空機研究始まる

1910年(明治43)

- 1月 巨船クリーブランド号で来日の米人団体観光客650人入京
- 2月 川上音二郎、大阪に帝国座を創立
- 3月 東京銀座に発明館開館
- 4月 石川県輪島で大火
- 5月 青森県青森市で大火
- 5月 ロンドンで日英博覧会開催(～10月まで)
- 5月 ハレー彗星、地球に接近
- 5月 大逆事件の大検挙始まる(6月に幸徳秋水逮捕)
- 5月 寺内正毅を韓国統監に任命
- 7月 栃木県那須野で日本初の気球演習
- 8月 東海・関東・東北地方一帯に豪雨、各地で大洪水
- 8月 韓国併合に関する日韓条約調印
- 9月 山田猪三郎、山田式1号飛行船の飛行に成功
- 10月 朝鮮総督府設置
- 10月 寺内正毅を初代朝鮮総督府に任命
- 11月 白瀬中尉ら南極探検隊28人出帆
- 12月 日野熊蔵大尉、代々木練兵場でグラデー式単葉飛行機で初めて飛行に成功

1911年(明治44)

- 1月 オーストリアのレルヒ少佐、新潟県高田で陸軍青年将校に初めてスキーを指導
- 1月 大審院、幸徳秋水ら大逆事件被告24人に死刑判決
- 2月 国定歴史教科書の南北朝正閏問題おこる
- 3月 帝国劇場開場式
- 3月 ローマ万国美術博覧会開催
- 4月 石造塔橋に改造された日本橋の開通式挙行
- 4月 吉原遊郭大火
- 5月 山形市で大火
- 5月 上野動物園に初めてカバ入園
- 7月 第3回日英同盟協約調印
- 8月 第二次西園寺公望内閣成立
- 11月 九州陸軍大演習に臨幸の天皇お召列車、門司駅で脱線
- 12月 第28通常議会召集
この頃、レコード、蓄音器が普及(本書にビクターの広告多数掲載)
この頃、イルミネーション装飾や広告が急速に普及

1912年(明治45、大正元)

- 1月 日本陸軍500人、漢口警備の陸戦隊と交代のため漢口に到着
- 1月 南京臨時政府成立。孫文、臨時大統領に就任
- 1月 大阪難波新地にて大火
- 2月 清朝滅亡
- 3月 東京洲崎遊郭大火



▲新領土の異風 朝鮮の博奕 / 1910年9月15日号



▲日本に2箇所しかない新式電話交換機 / 1909年8月1日号



▲1910年7月15日号
親英の相首は疑なき命の閣内
Chief aide of the Premier Marquis Kato



▲日本初の陸軍スキー演習 / 1911年2月15日号



▲竣工した日本橋 / 1911年4月15日号



▲日本初の陸軍気球演習 / 1910年8月15日号



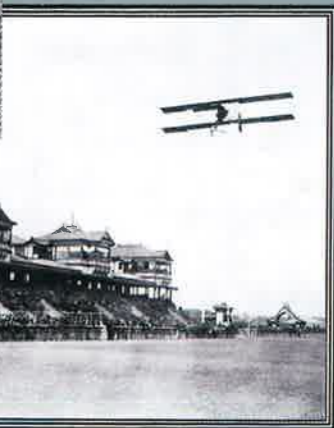
▲東京大水害の様子(本所亀澤町付近) / 1910年9月1日号



▲日本一のスリの親分 仕立屋銀次の逮捕 / 1909年7月15日号



▲「日本の美人」特集号 弘前大和屋の成子 / 1911年1月1日号



▲目黒競馬場における飛行会 / 1911年4月15日号

あらゆる事象を切り取った写真の数々が明らかにする、知られていなかった100年前の日本の姿

有楽社とは

一九〇四年(明治三七)に、中村弥二郎(筆名、中村有楽)が京都西陣の河合長蔵の資金援助を受けて設立。雑誌「英文少年世界」「手紙雑誌」をまず創刊し、その後、北沢楽天主筆の「東京パック」(一九〇五年四月創刊)、東京パック社刊「有楽社発売」、同じく北沢主筆の児童雑誌「フレンド」(一九〇八年一月創刊)を発行する。また、本書「グラフィック」(一九〇九年一月創刊)、「グラフィック演芸」(一九一〇年一月創刊)をはじめ、「月刊食道楽」(一九〇五年五月創刊)なども発行していた。



▲2月13日の衆議院議場と名士の演説振り / 1909年3月15日号



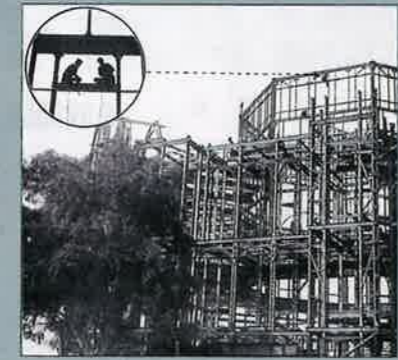
▲日本柔道とボクシングの試合 / 1909年5月15日号



▲河野広中の演説振り / 1911年1月15日号



▲奈良式飛行機の実地試験 / 1910年11月10日号



▲中央停車場(東京駅)の建設風景 / 1911年6月15日号



▲幸田麟伴と愛児 / 1909年12月1日号

グラフィックとは

一九〇九年明治四二一月から同一二年三月まで、有楽社より刊行されていた写真報道雑誌。以下は、有楽社による「グラフィック」の宣伝文句の一部である。「グラフィック」は最も敏速に、最も精緻美麗なる写真を以て手に取る如く社会各方面の出来事を報道する画報雑誌なり、坐らして世間の大活劇を目撃し、高貴名流の家庭に出入し、大人豪傑の警咳に接するの感あらしむ、其規模の宏大にして設備の完全せる此種の雑誌は蘇西以東独りグラフィックあるのみ(一九〇九年十二月、第一巻第二十五号巻末広告より抜粋)